

書名 絶滅できない動物たち

著者名 M. R. オコナー

出版社 ダイヤモンド社

紹介文

種が絶滅するのは悪いこと。絶滅から種を救うのは良いことだ。

そんな思想で人間は自然保護、動物保護を行ってきた。しかし人間が介入した自然は本当に「自然」なのか？

滅菌室でしか生きられなくなったカエル、冷凍によって「遺伝子」を保護されたカラス、ゲノム編集で蘇るハト…「いっそ絶滅してしまったほうが、」そんな問いに対して、あなたならどんな答えを出しますか？

